

支援プロジェクト 端切れなどを利用した小物作り

宮古市磯鶏(そけい)仮設集会所にて



ブックカバーの制作に取り組む。
紙で仕上り、折り目などを確認しながら作業を進める。



製作図ができたら布地に印を付けるのだが、その作業の素早さにびっくり。躊躇なく、てきぱきと作業を進めています。
カメラが素早さについていけません。



布地につけられた印に従い、ミシンで縫い付け作業。慣れないミシンで怖いと言いながらも作業は素人目にも鮮やか。脱帽です。実は縫製工場です。



作業を進めているうちに、ご近所が集まり井戸端会議。ズボンのすそ上げ、パッチワークづくりなどをしながら会話が弾みます。



試作品の数々。巾着袋やトートバックなどが出来上がりました。裏の縫い代部分も、ほつれが無いように丁寧に加工しています。



巾着袋の他にも、ブックカバー、箸・スプーン入れなどオリジナル作品にも挑戦しています。生地は本藍染の物を使用。弘前の川崎染工場さんからの協力をいただきました。

支援プロジェクト 写真洗浄及び写真返却展



大切な思い出を一人でも多くの人のもとに返してあげたい。そんな熱い思いでミーティングにも熱がこもります。



状態の良いものは一枚一枚、大きなファイルに入れて、持ち主の目に触れやすいように展示。でも、写真の数はあまりにも膨大です。



一人でも多くの人のもとに帰ることを願い、展示物の整理にも余念がありません。



額縁、パネルになったものは、比較的きれいな状態です。知り合いの方がいないか、来場者に声をかけて、手がかりを探すことも展示会の目的です。

写真洗浄の最前線



拾われた場所、特徴を大雑把にまとめ、洗浄チームの元に届けられます。



写真の傷みは想像以上です。海水、重油、ヘドロなどの混合物に長時間浸っていたので、触っただけで表面のインクが融けてしまうものがほとんどです。



写真に付着した泥や砂を、真水で洗浄します。でも、ちょっと力を入れただけで表面のインクが落ちてしまいます。繊細さが求められる地味な作業です。



重なった写真も厄介です。溶けたインクが上に重なった写真にくっついていくのです。慎重に、丁寧に、そっとはがしていきます。



写真洗浄の最前線が、この相撲の稽古場。風通しが良く、雨露が凌げますから最適ですが・・・、海水混りのヘドロのにおいにハエが押し寄せます。



写真一枚の洗浄に10分以上かかることも。熱中しすぎれば、腰痛・肩こりの餌食に・・・

スーパー竹とんぼプロジェクト



身近な素材の竹とんぼであるが、競技用ともなれば、滞空時間が10秒に迫るものになるとか。熊本から駆け付けた安田さんです。



ベンチ プロジェクト



ちょっとした交流のきっかけが、このベンチ。ベンチでのおしゃべりが人々の心を和ませてくれます。帽子の男性がプロジェクトリーダーの六十刈さん

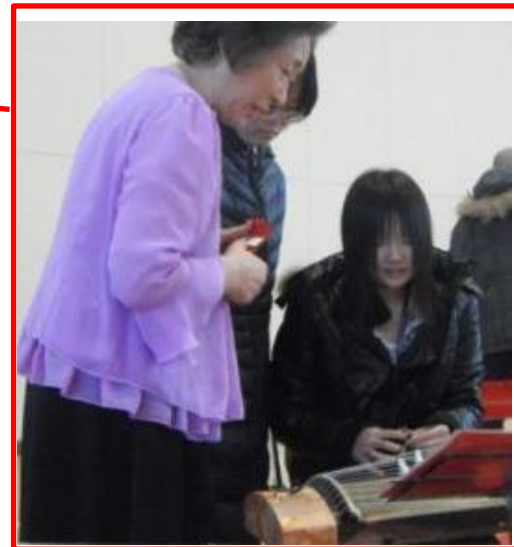


昭和の大津波、チリ地震津波、平成の大津波を体験した松本のじいちゃん。90を超えてなお、現役の漁師です。

田老 箏コンサートでの支援対象者



他にも、二胡やヴァイオリン等を支援してくれる人も見つけていますから、趣味の世界を広げる支援活動もしていきたいと思っています。



演奏会終了後のふれあいコーナーで、お箏に釘付けになっていた中学生?高校生?くらいの子。たぶんの話ですが、お箏教室でもあれば、参加してくれると思います。なんとか、この二人を探し出して、和楽器の輪も広げていきたいですね。挑戦してみます。



熱心に聴いていた女性。今回の大津波で箏を流されたということで、演奏終了後、試し弾きでバンバン弾いていました。お箏があれば再開してくれると思います。上手くすれば、上の写真の女の子にお箏を教えながら、自分の趣味として活動も参加してくれると思います。

手芸サークルの可能性

最新作 『お正月飾りのリース』 あらゆる素材で作品を生み出しています。一番は「押し野菜」花じゃないよ!!



余談ですが、高浜で聴いてくれていた真ん中の女性は関川さん。手芸とかを趣味にしている方で、今度はこの関川さんと支援についてのやり取りをしてみるつもりです。お箏の演奏会とのコラボレーションも素敵かなと思っています。作品の展示会と手芸サークル的な活動の支援を考えています。

下の三点はすべてネクタイから。驚きです。



藍染布による作品群



定番の中着ですが、模様配置、バランスが取れているため、古さを感じさせない仕上がりになっています。



上の写真は大阪の方から支援して頂いた、雛飾りです。



昔、七首(アイクチ)
今は、マイ歯ブラシ・箸入れに。色
違い、裏地の使い方がとても上品で
す。
携帯ケース等もいいかも。



生地・色の違いを生かして軽快感を引き出しています。エコバッグとしてだけでなく、洋服を選ばないセカンドバッグとしても活用できそう。